日本勤労者山岳連盟・静岡県勤労者山岳連盟

裾野麗峰山の会 (sine１９９４)

第２２期・２巻　　２０１６年８月号　　NO. １８４

仲間と仲間を結ぶ機関誌

すそのほう

Susono Reihou Alpine Club

NO. １６９４　７月度・定例ハイク

７月１０日（日）霧ヶ峰・車山（１９２５m）

もくじ

表紙
山々のブログ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2p
経過報告　　全国連盟・県連盟・東部ブロック会議・・・・・・・・・・・・3p
会山行報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4p
個人山行報告
今後の予定
その他・四方山話
今月のベスト・ショット・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15p

「山々のブログ」　Ｎｏ．１６０

後藤隆徳

先日、奥秩父を目指したが、清里に着くと霧ション（霧雨）で一面の濃霧だった。これでは何処に行ってもしょうがない。近くの川俣川に行ってみた。

ここは秋、紅葉狩りで沢山の人が訪れるハイキングコース。私も久しぶりだったが、アプローチの道が荒れていて驚いた。

ハイキングコースとして売り出している割には、手入れがワルイ。下草は伸び放題。樹木が道を塞ぎ、潜ったり・跨いたり。傾斜ある木道は、横の桟木がなく滑る滑る。はたまた渡る橋は、今にも落ちそうだった。

しかも、各コースが「橋がない」「土砂崩れ」等で、通行止めが多い。また、その案内板が、ハイキングコース入口から１時間位の所にある。これでは、折角来た方がガッカリだ。（よくある道路工事のアレと同じ）

管理は、北杜市のようだが、猛省を促したい。月曜日、北杜市観光課に電話した。若い男性が応対。感じは良かった。

結論は、「申し訳ない」だった。下刈りは早々に実施。斜めの危険な橋は、今年、架け替え予定とのこと。しかし、今からやって、秋のハイシーズンに間に合うかの問いに「そうですね～」の返事。ノンビリしていると言うか、無責任と言うか・・・。余りに無計画なお役所仕事。

通行止めの件も、明確な回答は無かった。ハイキングコースだから、ある程度歩けなかったら、いっそ閉鎖したほうがスッキリする。中途半端な開場は、誠にいただけない。

その日、歩道を塞いでいた大きなバラの木にザックカバーを引っ掛け破いてしまった。

冗談で、「損害賠償ですね」と言ってやった。（笑い）

川俣川
吐竜の滝

１．県連理事会報告　　７月　１０日（日）　　午前９時～１２時　サンライフ藤枝

【理事出欠状況】

伊豆ＨＣ　塚平勝司（○）	清水労山：牧野英夫（○）	山の会ケルン：西森輝茂（○）
三島労山：山口美恵子（○）	静岡労山：志村明美（○）	浜松労山：手塚昌幸（○）
裾野麗峰：小松眞明（○）	静岡労山：瀧　茂（○）	浜松労山：後藤秀人（○）
駿東山の会：近森正彦（○）	焼津山の会：山木よしの（○）	山の会フレンズより移籍
沼津労山：植松久美子（○）	安倍っ子山の会：竹本幸造（○）	
あさぎり山の会：斉藤富夫（欠）	ＮＭＣ　：海野美春（○）	
ふじ山楽歩：加藤秀子（欠）		

１．各ブロック報告

東部　別紙資料

・記念誌　山行報告　　地図を加える　　概念図でもＯＫ

表紙をカラーにする　　１部５０円程度高くなる

中部　別紙資料

西部　　６月２１日　ブロック会議

・平和行進の確認・クリーンハイクについて確認

・手ぬぐいデザイン決定　　サンプルを配信

２．全国一斉清掃登山

３　ベルクバハト隊訓練　　別紙

参加者資料に追加　　黒田さん（磐田ケルン）

４　全国連盟主催各種セミナー報告　　別紙資料ｘ

第１９回自然保護講座（志村：静岡労山）

・野生動物目撃情報　管轄の県市町村へ

全国女性担当者会議（山口：三島労山）

全国遭難対策担当者会議（瀧：静岡労山）

５．福島視察および松村会長夫妻経営の福祉施設見　別紙資料

ゴーストタウンとなった町､外での遊び方を知らない子どもたちなど津波被害を受けた地域とは違う現状を見た。

６．福島の子ども保養プロジェクトの開催　　別紙資料

７．山の日制定記念企画について　　別紙資料

手ぬぐい	購入数
記念誌	購入数
祝賀会	第１次集約

７月末に

８．安全登山講習会　　別紙資料

９．静岡県連創立５０周年記念祝賀会　　別紙資料

祝賀会打ち合わせ　９月６日午後　予定

１０．財政より

・脱退した「どんこう静岡」の全国連盟費を納入してもらえるようになった
・熊本カンパ　次回集計報告

１１．行事・会議・研修・ボランティア等日程
・祝賀会打ち合わせ　清水テルサ　　９月６日（火）に変更
・１０月１６日　山の日制定に伴う交流ハイキング
８月以降日程・参加方法など案内

２．８月度例会報告　　８月７日（日）生協会議室１６：００～１７：３０
後藤・ＫＫ・ＩＴ・ＭＴ・ＨＡ・ＭＭ・ＨＫ＝７名

・経過報告
・山行報告　夏山合宿　燕岳～常念岳
ＩＴ＝懸案だった、常念岳に上れて満足だった。
ＭＴ＝２日目コケて痛かった。
ＭＭ＝持参食事は、まあまあ良かった。
ＨＫ＝初めてのテン泊は、豪雨もあって大変だった。靴下が濡れ足が擦れて難儀した。

・今後の予定　８月１１日、山の日＝ＢＢＱは参加者少で中止。
８月第二土曜の定例ハイクは、猛暑のため中止。
第四土曜日、ハイクの日は実施したい。

・学習会　　ハイキングＡ・Ｂ・Ｃで、ｐ４まで学習した。
・その他　　９月４日（日）例会は、生協が工事中の為、コミセン３Ｆ会議室で１６：００～開催。

３．山行報告

・ＮＯ．１６９７　７月２９日（金）～３０日（土）
・北アルプス・燕岳～常念岳
・後藤、ＫＭ、ＭＴ、ＭＭ、ＨＫ、ＩＴ＝６名

２９日（金）曇り・霧
長泉４時発。中房温泉８：１５発。登山者、下山者が多い合戦尾根を上る。中学生の団体が下って来た。実に賑やか。合戦小屋で、例のスイカを食す。八分の一で８００－。それを仲間と半分づつ頂いた。サイコーに美味しかった。燕山荘下は花が良かった。１２：２４山荘着。
ここで隊は二つに分かれ、私以外は燕岳に向かう。往復約１時間。私は大天荘予約とテン場確保で一人先行。この縦走路は、花が良かった。１５：４５、バテバテで大天荘着。３時間掛かった。ここは２００１年北鎌尾根時にも歩いている。１５年前だが登攀具・テン泊装備で２時間半だった。兎に角、今回は厳しかった。テン場はほぼ満席でやっと一場所確保。早く来て良かった。

燕岳を往復したメンバー着は、１７：００近かった。厳しい山だった。小屋の夕食は１８：００から。今回、食事は小屋で摂った。夕・朝食＝４０００－、テント代は、一人７００－。これは水とトイレ代だろう。テン泊の小屋で食事は初めて。年齢を重ね、軽量化を考えた結果。今回の重量は１５ｋｇ位だろう。それでも腰は痛い、膝はガクガク。ま、来年２月で大台では仕方がない。こんなものだろう。特に初日はキツイ。

外で軽く飲んで夕食。おかずは、ハンバーグとサバが選べた。殆どがハンバーグだった。ジャガイモが妙に硬かった。それでも、背負って来ることを考えれば有難い。隣には、ライチョウの研究で有名な信州大学教授・中村浩志さんがいた。何処かのテレビ取材らしいが、「先生・先生」を連発だった。翌日も稜線で調査中お会いした。会話ついでに、芦安ファンクラブのＳは、良く知っていますと話したら、教授も**「分かっています」**だった。

夕食を終え、まだ時間は早いのでベンチでイッパイ。写真の「岩波」銘柄の酒がサイコーに美味しかった。隣にいたＴ君たちと交流。若い人は気持ちが良い。

若い衆と交流後、テントで熱燗をもう一杯やった。その後、就寝。ほどなく、ポツポツと雨が降って来た。それから朝まで雨は続いた。しかも、最近にないようなモーレツな雨だった。それに妙に寒かった。おかしいと思いテントをチエックしたら、後ろのファスナーが開いていた。

雨もガンガン入ってしまい、Ｈさんのカメラが水没。動かなくなってしまった。中には水が溜まり、飲んだ酒の空き缶で掻い出した。雨は朝方小降りになった。

３０日（土）霧のち晴れ

朝食時間にカッパを着て小屋に入る。朝食後、雨は殆ど止んだのでテントを撤収する。その間、ほかのメンバーは大天井岳をピストンした。

テントを畳んで驚いた。何とテントの下は**「全く濡れていないで乾いていた」**従って床上浸水は下からでなく周りから入ったものだった。フライシートが古く防水が効いていないようだ。水をタップリ吸ったテントを背負って６：３０出発。二日目は体が高山に慣れ少し楽だった。途中で前述の雷鳥調査の中村教授らに会った。

東大天井岳から常念小屋に下った。天気は晴れそうになったり、ガスったりを繰り返していた。常念小屋で今後を検討。男性は蝶まで行きたい、女性は天気が心配・上りが厳しい・脚がむくんでいる感じ等で、蝶は否定的だった。それでも、荷物を背負って常念の上りに掛かる。

しかし、一名の女性が完全にブレーキ。超鈍行になってしまった。それを見て、ここで駄目と判断。蝶は止めた。荷物をデポして空身で常念をピストンした。下って小屋前で昼食。テントも出して干した。蝶まで行けなかったのは残念だが、無理も出来ない。一の沢を下る。長い長い下りだった。ただ、花は物凄く良かった。

ヘロヘロ、メロメロで登山口着。合宿は終えた。中房温泉は１７：００で終了だった。途中の面白い名前の**「山のたこ平温泉」**で汗を流した。更に下り、夕食を済ませ帰静した

（以上、事務局）

２日目＝７月３０日（土）曇り時々晴れ

コマクサは愛らしく、雨は薄情

文　H．K

コース・タイム　起床４：３０－小屋朝食５：３０－出発６：３０－東大天井岳分岐８：００－横通岳（パス）－常念乗越９：０５～２１－荷物デポ９：３０－常念岳１０：４６～５５－常念小屋１１：４５～１２：３３－一の沢―ヒエ平１５：５８－入浴―食事―長泉１１：００ころ

深夜の雨はテントを物凄い音で叩き付ける。うつらうつらしながらその音を聞いている。寝ているようで寝てない、寝られないのは仕方がないと思い、シュラフカバーに包まっている。それにしてもとても寒い。思わぬ雨に気持ちも下降気味。この雨どうなるのだろう？

早朝 4 時頃、小屋泊まりのMさんが傘を差しテントまで様子を見に来てくれた。心配そうに来てくれて嬉しかった。取り敢えず 5 時 30 分の小屋での朝食時間に皆で集合しようとＣＬが伝えた。ぼちぼちこの狭い空間で準備をしなければならない。荷物は四隅に置くしかなく、昨夕　真ん中で休んだ私の荷物は出入り口と反対側の窓の下に置いた。

翌日のテン場
テントの下は乾いてた

常念小屋に下る

吹き付ける雨でテント内の出入口の浸水がひどいので、出入口付近と窓の下の水を掻き出そうという事になり荷物をマットの上に移動したとき、私のカメラが水没しているのを発見。ショック！そして、窓が網になっていて、しっかり閉じていなかったことを発見。寒い理由がそれだった。

とにかくとんでもない事態になっていた。カメラが壊れてしまったことで大損害。打撃が大きいけれど、そんなことより、何とかしないといけない、濡れてしまっているザックに、濡れている衣類をいれ、片付け始める。乾いているはずのものでも濡れているように感じてしまう。取りあえず、レインウエアーを着て、小屋まで行き、食事を終えたらテントを撤

収する段取りになった。
ボリュームのある朝食を頂戴し、小屋を出るころやや小降りになってきた。有難い。濡れたテントを片付けることは大変な事だ。中の荷物を外に出し、テントを外していくのだ。畳んでも元の大きさにはならないし、荷物重量は増えている。テント組が片付けている間、小雨の中、小屋組は空身で大天井岳（2922m）を 20 分位で往復。昨日、雨が降り出す前は裏山みたいな散歩コースのように見えていた。お天気が良ければ槍ヶ岳や穂高が見えるはず？残念でならない。

全員が揃ったところで 6：30 出発。霧の中を歩き始める。どんな一日になるか、お天気次第だ。暫く行くと、雷鳥の研究で有名な信州大学の中村浩志教授たちが雷鳥を観察している場面に出会え、雷鳥を見ることが出来た。中村教授は猿が雷鳥を捕食する瞬間を確認している。地道な研究だ。
霧の中のアルプスの縦走路を東天井岳には上がらず常念岳に向かって下る。展望のない山行ほどつまらないものはない。自分の視野は足元や目の前の花たちだけ。ゾクゾクする高揚感が得られないロケーションにがっかりだが・・仕方がない。昨日の長い表銀座の縦走と雨疲れで、調子が上がらない。靴の中の湿気が最悪。
それでも西側に見えるはずの槍ヶ岳の方向を眺めながら、雲が切れるのを願いながら歩いていた。メンバーは寡黙で黙々と歩く。ＣＬは重量の増したザックを背負ってもマイペースで歩いている。相変わらず 2 番手と距離が開く。どこの山に上っても富士山を探し、自分の位置を確かめ感じる楽しさがあるのだが・・本当に残念でならない。

雲が少しずつ切れ始めてきた。すると前穂高の特徴のある 3 つの山頂が見え、とても嬉しくなった。わくわくしてメンバーに「あれが前穂高！」足を止め皆で眺める。本当に良かった！　もうちょっと右手の雲の中に槍ヶ岳が隠れている。全貌が見る事ができるのか？
雲が流れ少しずつ穂高連峰が見えてきた。一瞬に近いが、槍ヶ岳が見えた時はメンバーで喜んだ。

カメラが壊れてしまったので　写真に撮れずＣＬには疑われたが、皆で見た。目的を達することが出来本当に良かった。心が晴れてちょっと元気が出てきた。常念小屋までの下りは梯子がありで大変だ。下りれば下りるほど草の丈が高くなり歩きづらい。
昨日の合戦尾根、表銀座縦走路あたりでも悩まされた虫、草の間にもいる。本当に鬱陶しい。ストレスの元だ。やっとの思いで常念小屋に着いたときは足がよれよれ。大天荘から 3 時間半くらい掛かった。少々休憩を取る。雨は降っていない。雲は切れ始めている。ＣＬはこれ以降、晴れと予想しているようだ。当初の予定でいくと、常念小屋から蝶ヶ岳ヒュッテまで行って泊まる。5 時間 30 分位の行程だ。
そうなると、順調に行けば 16 時頃の到着になる。とにかく先に進もうとＣＬの判断で、岩だらけの常念岳の急な斜面を上がることになった。休憩後の上りはきつい。メンバーのゆっくりした足取りに、ＣＬは急遽、荷物をデポして、空身で常念岳に登頂することを指示した。
私はホッとした。単純なものでとたんに元気が出て常念岳の斜面をぐんぐん上がれた。常念岳（2857m）の山頂は岩場なので大変狭い。小さな祠があるだけだ。Ｍさんに写真を撮って頂いて、直下まで下り、皆が来るのを待つ。全員が上がり、常念小屋まで下り昼食。風も

出てきて、濡れているテントを広げゆっくりと過ごす。天気は回復に向かっている様子がよく分かる。でもこれから下山する。ＣＬはさぞ計画どおり実行できなかったことを残念に思

常念岳頂上

大天荘弁当
酢飯で
美味しかった
とのこと

常念乗越

っているのではないかと想像する。とはいっても常念小屋から一ノ沢登山口まで 3 時間 10 分はきつい下りだ。常念乗越から安曇野観光タクシーにＣＬが電話し、下山後中房温泉までのタクシーを予約する。ドコモが通じるのはここだけのようだ。

下山開始。昨晩の大雨で沢のように水が流れている登山道を下る。胸突八丁までは急坂が続く。滑らないように注意深く下る。常念岳に上がってくる登山者が多く、人気がある百名山という事がよく分かる。

狭い登山道の山側の急な斜面には多くの花が見られ色とりどりに咲き誇っている。とても和やかな気持ちになる。表銀座縦走コースのコマクサも愛らしくて良かったが、こちらは水

が豊富な場所だけあってまた違う花々で優雅な趣だ。当初の目的の一つ、「花々」に関しては申し分のない感動を頂けた。

花好きなＩさんやMさんは満足気にみえた。沢を横断する丸太をいくつか渡り、樹林帯を延々と歩き、やっと 15：58 ヒエ平に到着した時には足の踵の側面が擦れて皮がむけ、腫れてしまうほどだった。湿った靴下や靴がこんなになるとは想像できない状態だった。初めての超疼痛経験だった。他のメンバーも疲れたようだった。3 時間 30 分掛かってしまった。上りで 6 時間かかったという登山者もいたから無理もない。

予約していた移動タクシーの中でぐっすり熟睡してしまった。中房温泉下の駐車場には 17 時ごろ到着。残念なことに中房温泉は 17 時半までなので、安曇野まで 30 分下り「山のたこ平」という日帰り温泉に行く。入浴料金は￥500。そして、富士尾山荘で夕食を摂り、帰路に着く。

大事もなく下山できて本当によかった。皆さんに感謝です。

ソバナ（岨菜）

センジュガンピ
（千手岩菲）

オオバミゾホオズキ（大葉溝酸漿）

・ＮＯ．１６９６　７月２４日（土）
・富士山宝永山・２３５２m峰（歩荷訓練）
・後藤、ＨＫ、ＭＴ，ＫＹ，ＩＴ＝５名

昨日は、富士山宝永山２３５２m峰＝歩荷（ぼっか）訓練でした。コースは、須山下山道登山口～幕岩～第三火口～２３５２m峰～第三火口（昼食）～下山堂入口。標高差＝約１００

０ｍ。天気は霧・時々晴れ。参加は５名。

須山下山道入り口から出発。霧がかかり幻想的。気温は低く快適。今日は、来週の夏山合宿の歩荷（ぼっか）訓練。荷物は、後藤１７ｋｇ、Ｈ＝１１ｋｇ、ほか７ｋｇ前後。従ってペースはユックリ。一時間で御殿場口二合目からの道に出る。ここから幕岩経由で、一時間で二ッ塚からの道に合流。この上はやや急な道を一時間で御殿庭上。ここで展望が広がる。雲間に富士宮口六合から上る登山者を窺うことが出来た。天気は霧だったり、晴れ間が見えたりで、終始気温は低く快適。御殿庭上から最後の頑張りで２３５２ｍ着。下から３時間３７分だった。

標高差約１０００ｍだが、荷物を考えれば、こんなものか。寒いのですぐ下り、第三火口で昼食。ここの昼食は何度でもイイ。周囲はイタドリとベニイタドリの花が真っ盛り。コンロでシシトウ・エリンゲ・ハンペン・肉などを焼いていただく。

シシトウは、何個か「唐辛子級の辛いモノ」があり、それに当たった方は、絶叫だった。運の良い？？方は二回当たった。私は何故かゼロだった。これは、ロシアン・ルーレット的で可笑しかった。

下山は速い。富士山下部は岩場が少なく傾斜が緩いので、歩き易い。また、砂礫がクッションで膝に優しい。下から２パーティー３名が上って来た。この日会ったのは、この方のみ。実に静かな山。

二時間掛からないで下山し、美人の湯に入った。近場はアプローチ時間が少なくて嬉しいですね。（報告・事務局）

富士薊

・７月１６日（個人山行）
・川俣川
・後藤

土曜日は奥秩父目指しましたが、清里に着くと霧ション（霧雨）、一面の濃霧だった。これでは何処に行っても、しょうがないで、近くの川俣川に行ってみた。

ここは秋、紅葉狩りで沢山の方が訪れるハイキングコース。私も久しぶりだったが、アプローチの道が荒れていて驚いた。ハイキングコースとして売り出している割には、手入れがワルイ。下草は伸び放題・樹木が道を塞ぎ、潜ったり・跨いたり・傾斜の木道は、横の桟木がなく滑る滑る・はたまた渡る橋は落ちそうだった。

しかも、各コースが**「橋がない」「土砂崩れ」**等々で、通行止めが多い。また、その表示板が、ハイキングコース入口から１時間位の所にある。これでは、折角来た方がガッカリだ。管理は、北杜市のようだが、猛省を促したい。今日、電話をしてみたい。

その回答・・・
北杜市観光課に電話した。若い男性が応対。感じは良かった。
結論は、**「申し訳ない」**。下刈りは早々に実施。斜めの危険な橋は、今年、架け直す予定だそうです。

ただ、今からやっても、秋のハイシーズンに間に合うのかの問いに「そうですね」の返事。ノンビリしていると言うか、無責任と言うか・・・。余りに無計画。お役所仕事。
通行止めの件も、明確な回答は無かった。何もできなければ、いっそ閉鎖したほうが、スッキリする。中途半端な開場は、いただけない。
その日、大きなバラの木にザックカバーが、ひっ掛かり破けてしまった。冗談で、**「損害賠償」**といってやった。（報告・後藤）

・ＮＯ．１６９４　７月０９日（日）
・定例ハイク＝霧ヶ峰・車山（１９２５ｍ）
・後藤、ＭＭ、ＨＫ、ＫＫ、ＭＴ、ＡＭ、ＩＴ、ＯＴ＝８名

昨日は、土曜日行けなかった、霧ヶ峰でした。天気は快晴・高温。参加は８名。当初、登

山口は踊り場湿原からだったが、入り口の小屋情報は、「現在、湿原東端から車山肩に上がるコースは、閉鎖通行止め」だった。ここは個人の土地で地主が歩かせないとのこと。

強引に行こうかと思ったが、ヤブも辛いので諦めた。最近、地主の通行止めは案外多い。結局、車で更に上った、「霧の駅」から歩いた。
車山肩に着くと見事なニッコウキスゲ畑が広がっていた。ただし、鹿食害防止の電気柵に囲まれたいた。以前より広くなった感じ。柵外は殆ど咲いていないので、食害はかなり酷いのか。ここで駿東山の会２０名くらいと会った。懐かしい顔があった。

ごった返す車山から蝶々深山～物見岩に行き昼食。丘の向こうに湧いた入道雲が、夏を感させた。午後は八島湿原に下る。ところが先を下る連中が遅くて大渋滞。ビックリ・ポンだった。（古いか？？）
八島から炎天下、霧の駅に戻る。この道は上りで厳しかった。ただ、夏山訓練としては良かった。１４：４０帰る。大きな渋滞はなく長泉着。イイ山でした。　（報告・事務局）

見事なキスゲ

・ＮＯ．１６９３（個人山行）
・７月０１（金）～０２（土）
・焼岳（２４４４ｍ）・乗鞍岳（３０２６ｍ）
・後藤

金曜日は、久しぶりに焼岳に上った。中の湯から往復。天気は晴れ。涼しい風の中、登山開始。下掘沢は懐かしい。以前は、スキーでよく来たものだ。気象庁の方、４名が機材を持って上っていた。「今日は、爆発の可能性は」と聞けば、「分かりません」だった。「分かったら教えて」と言ったら、「私が一番で下ります」だった。（笑い）

北峰の水蒸気は相変わらず。ちょっと頭が痛くなった。簡単に北峰登頂。皆さんノンビリ昼食中。あまり噴火の心配はしていないようだ。ここから上高地に下る方も多い。外人さんが一人下って行った。中の湯に泊まる方は、釜トンまでバスが迎えに来てくれる。

ガラガラの道を下る。登山者が多く、荒れている感じ。花は少なかった。中の湯に入って終了。ここの温泉は、何回入っても素晴らしい。おまけに、７００－は安い。

焼岳の帰り、こちらも超久しぶりに、乗鞍岳に上った。上ったと言っても、標高２６００ｍ付近までバスで行くので標高差はない。ただ、一気にバス登山なので、歩き始めは息が切れた。まだ、雪渓が豊かに残り、スキーヤーが多かった。

花は焼岳より良かった。地元の話では「既に終わり」だったが、種類によっては、これからだ。乗鞍岳は、以前、山スキーでよく訪れた山。夏来ると、随分感じが違うものです。

（報告・ごとう）

焼岳は活火山

焼岳北峰から
穂高連峰

４．今後の予定

０１月１５日（日）＝県連交流ハイク（東部担当）

１２月２９日（木）～３１日（土）＝冬山合宿

１２月１０日（土）第二土曜＝忘年山行

11 月２７日（日）＝静岡県連５０周年記念レセプション＝清水テルサ（9：00～17：00）

１１月２６日（土）第四土曜＝山梨・小楢山（リベンジ山行）

１１月１２日（土）予備日１３日（日）＝秋の健康ハイキング＝山中湖～忍野八海

１０月３０日（日）県連・安全登山講習会

１０月２２日（土）第四土曜～２３日（日）＝秋山合宿（一泊二日）・両神山

１０月１６日（日）＝山の日・交流登山　宝永山周辺

０９月２４日（土）第四＝ハイクの日（リベンジ）・石割山

０９月１０日（土）～１１日（日）第二＝東部ブロック交流山行＝市川大門・シルクランド

０９月０４日（日）＝９月度例会・長泉コミセン３Ｆ小会議室１６：００～１７：３０

０８月２７日（土）第四＝ハイクの日

５．その他

・９月度例会＝９月４日（日）１６：００～は、生協が工事の為、会議室が使えません。従って、会場をコミセン３Ｆ小会議室に変更します。

・生協ホワイトボードで使う、マーカーペン購入しました。

・例会時「ハイキングＡ・Ｂ・Ｃ」での学習会は、今回ｐ４まで進みました。

・１１月１２日、健康ウオーキング公募は、三島市・長泉町に依頼しました。

６．今月のベストショット

夏雲湧く
霧ヶ峰

キスゲ満開・向こうにＡＬＰＳ

千島桔梗
（為右衛門吊岩付近）

雷鳥親子
（大天荘付近）

見事な」
ソバナ（岨菜）
（一ノ沢）